

福島第一原子力発電所 中期的リスクの低減目標マップ（2025年3月版）を踏まえた検討指示事項に対する工程表

2026年2月16日



固形状の放射性物質：優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野

①：水処理廃棄物等

No.①-1：プロセス主建屋等ゼオライト等の回収着手（2025年度）	P1
No.①-2：HIC内ALPSスラリー移替作業（2024～2026年度）	P2
No.①-3：スラリーの脱水処理開始（2028年度）	P3
No.①-4：除染装置スラッジの回収着手（2028年度）	P4
No.①-5：大型廃棄物保管庫第一棟への吸着塔類の屋内保管移行完了（2026年度）	P5
No.①-6：大型廃棄物保管庫第二棟への水処理二次廃棄物の屋内保管移行完了	P6
No.①-7：スラリー脱水物の固体廃棄物貯蔵庫（第11棟以降）における保管への移行完了	P7
No.①-8：水処理二次廃棄物の固化処理方針の策定（2025年度） 水処理二次廃棄物の固化処理方法決定・施設整備計画具体化 スラリー脱水物固化処理施設設置	P8

②：瓦礫等（これまでの廃炉作業等によるもの）／建屋解体物等

No.②-1：表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（低線量・BG相当）（2025年度） 表面線量率による瓦礫類放射能濃度管理手法の構築（中線量）（2028年度） 高線量瓦礫類等の放射能濃度管理手法の検討 3・4号Rw/Bを対象とした施設解体に係る試験の実施 建屋解体に係る汚染調査、解体方法等の整備（建屋解体モデルの策定）（2028年度） 実施施設解体への適用（3・4号Rw/B含む）	P9
No.②-2：廃棄物貯蔵庫（10棟）運用開始（2024年度） 廃棄物貯蔵庫（10棟）一時的運用解消（2033年度）	P10
No.②-3：廃棄物貯蔵庫（11棟）運用開始（2027年度） 廃棄物貯蔵庫（11棟以降）運用開始	P11
No.②-4：溶融設備設置（2029～2031年度）	P12

③：核種分析

No.③-1：分析第一棟での廃棄物に係る分析の開始（2024年度） 分析第二棟設置（2026年度）※ 総合分析施設の設置	P13
No.③-2：分析計画に基づく試料採取・分析の実施（主要核種の濃度の把握／固化に係る化学的性状の把握／既発生瓦礫類の汚染状況のばらつき把握（グルーピングの整理）／建屋コンクリートにおける核種浸透挙動の把握）	P14

固形状の放射性物質以外の主な目標

④：汚染水対策

No.④-1：滞留水中のα核種除去開始（2027年度） プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下	P15
No.④-2：建屋外壁局所止水対策の完了（2028年度） 建屋流入量の更なる低減 （WPくみ上げ抑制策の検討／2.5m盤汚染箇所の特定／2.5m盤汚染土壌隔離措置・浄化策等の検討／凍土遮水壁の段階的終了に係る検討）	P16

⑤：原子炉建屋内のリスクの低減

No.⑤-1：1号機原子炉建屋カバー設置（2025年度） （1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度））	P17
No.⑤-2：6号機燃料取出し完了（2025年度） （1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度））	P18
No.⑤-3：乾式キャスク仮保管設備増設 共用プール燃料搬出・高台での乾式保管の開始※	P19
No.⑤-4：1/3号機S/C水位の低下（2025年度） （3号機RHR（A）系統の水素滞留を踏まえた調査と対応）	P20
No.⑤-5：1/3号機注水停止試験・給排水流量変更試験等による炉内挙動の把握 （炉内雰囲気管理のための適切な給排水流量の検討／適切な炉内冷却方法の検討／炉内状態監視手段等の検討）	P21

⑥：設備・施設の維持・撤去

No.⑥-1：原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度） 1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）	P22
No.⑥-2：運用補助共用施設周辺の斜面対策工事の完了	P23
No.⑥-3：廃炉設備の維持・撤去に係る計画の策定（2024年度）	P24
No.⑥-4：新水処理設備の設置（新ALPS設備、新RO設備）	P25

⑦：廃炉作業を進める上で重要なもの

No.⑦-1：2号機燃料デブリ試験的取り出し・格納容器内部調査・性状把握（2024年度）	P26
No.⑦-2：1/2号機排気筒下部の高線量SGTS配管等の撤去・周辺の汚染状況調査（2025年度）	P27

※：廃炉作業を進める上で重要なもの

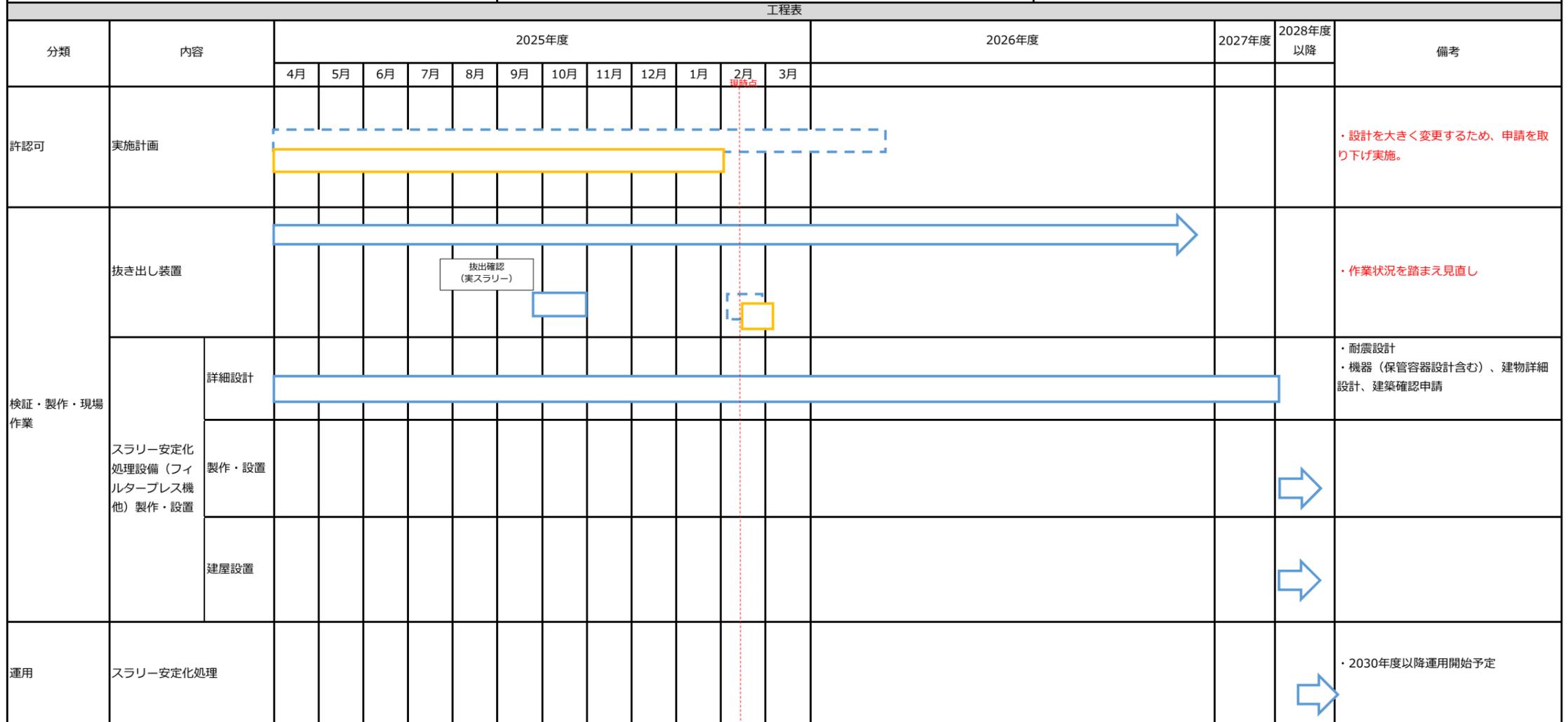
⑧：継続的な実施を行うもの

No.⑧-1：原子炉建屋内等の汚染状況把握（核種分析等） 原子炉冷却後の冷却水の性状把握（核種分析） 原子炉建屋内等での汚染水の流れ等の状況把握	P28
No.⑧-2：格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握（圧力容器内については今後実施予定）	P29
No.⑧-3：排水路の水の放射性物質の濃度低下	P30
No.⑧-4：高線量下での被ばく低減 建物等からのダスト飛散対策 労働安全衛生環境の改善 品質管理体制の強化 （高線量作業に対するリスク抽出及び業務管理の強化）	P31

No.	分類	項目																	
①-2	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	HIC内ALPSスラリー移替作業（2024～2026年度）																	
現状の取り組み状況		検討課題						今後の予定											
スラリー安定化処理設備が運用開始するまでに積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業実施中。 ・2024年度に積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業を2025年2月に完了（累計125基【2023年度までに実施した102基含む】） ・2025年度に積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業を実施中2026年1月に完了（2025年12月14日時点→累計148/151基【2024年度までに実施した125基含む】完了） ・2026年度に積算吸収線量が上限値（5,000kGy）に達する高性能容器内のスラリーの移替え作業を実施中（2026年2月16日時点：累計154/199基完了）		-						・積算吸収線量が5,000kGyを超える前に移替えを実施し、ALPSスラリー安定化処理設備の運用開始まで継続。 （2025年度：26基、2026年度：48基、2027年度：23基、2028年度：32基、2029年度：24基、2030年度：24基の移替えを計画）											
工程表																			
分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 現時点	3月						
現場作業	HIC内スラリー移替作業（スラリー安定化処理設備が運用開始するまでに積算吸収線量が上限値に達する高性能容器）																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-3	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	スラリーの脱水処理開始（2028年度）
現状の取り組み状況		検討課題
<p>○スラリー安定化設備</p> <ul style="list-style-type: none"> 2021年1月7日 実施計画変更認可申請 → 申請内容と現在の設計内容が大きく異なることから、実施計画変更認可申請を取り下げた（2026年1月29日）。設計が完了次第、再度申請を行う。 設備の閉じ込め機能に係る詳細設計実施中。 設備の詳細設計（脱水物の充填・搬出、メンテナンス時ならびに設備運用時の作業員に対する被ばく低減策、ダスト飛散防止対策、脱水物保管容器等に係る詳細設計）を実施中。 HIC解体エリアの追加や長期運用を考慮した導線確保による建屋規模拡大や、気密性確保のための建屋構造変更を踏まえた建屋詳細設計を実施中。 実規模フィルタープレス機での脱水試験結果から、脱水物の取り扱い方法の見直しとなり、セルや脱水物を格納する容器、脱水物搬送方法にて見直しを実施中。 <p>○スラリー抽出装置</p> <ul style="list-style-type: none"> HIC底部スラリーの性状確認を2基実施し、固化は確認されず。水の添加・攪拌による流動性が向上することを確認。 抽出装置による抽出確認（模擬スラリー）を実施し、水流を用いた抜き出し方法の成立性を確認。 抽出装置の抽出確認（実スラリー）の実施し、水流を用いて抜き出せることを確認。今後別のHICにて抽出確認を実施し、水流を用いた抜き出し方法の成立性について確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 設置候補地の変更に伴い、機器設計（プロセス設計ならびに機器配置設計）の見直し。 地質調査の結果を踏まえ、必要に応じ地盤改良範囲の見直し。 M/U結果により、セルの大きさやマニピュレータの取り付け位置に変更が生じる可能性がある。 耐震設計の結果、機器・建屋詳細設計の見直しの可能性がある。 類似工事にて積み上げた工程であり、セル設置に係わる建屋工事との調整が詳細設計後になるため、工事工程の詳細については、設計段階であり、変動する可能性がある。
		今後の予定
		<ul style="list-style-type: none"> 機器配置および建屋形状の見直しに時間を要したことや33.5m盤での耐震B+クラス設備の他設備の建屋設計実績から建屋設計期間が現状の想定期間より必要となること、建屋が一般的な建屋と比べて辺長比が大きくなり、解析方法の変更が必要になったことに伴い、建屋設計に時間を要することが確認されたことから、それを工程に反映すると、脱水処理開始が2028年度から2030年度以降となる。 機器配置ならびに建屋形状における建屋の構造強度の成立性が見えてきたことから、今後、機器ならびに建屋の耐震設計を進める。



赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
①-4	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	除染装置スラッジの回収着手（2028年度）
現状の取り組み状況		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 33%;"> <p>・プロセス主建屋壁面に遠隔装置、吸引装置を搬入するための仮設構台の設置、および壁面の開口作業完了。</p> <p>・プロセス主建屋1階の除染作業を実施中。</p> <p>・スラッジ抜出しの過程における脱水を計画中（“安定化処理”を別途、計画する必要があるかを今後判断）</p> <p>・2024年5月27日の技術会合にて、原子力規制庁殿と方向性の合意のもと、ダスト閉じ込め対策の設計を見直したが、設備の追加や筐体の大型化に伴い、耐震評価の見直しを実施。</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>・抜き出し装置を設置するプロセス主建屋1階が高線量であることから除染の検討</p> <p>・高線量スラッジを取り扱うことから遮へい、漏えい対策等の安全対策の検討</p> <p>・抜き出し時にスラッジをどこまで脱水できるかについて検討</p> <p>・スラッジの脱水性の評価と脱水設備の設計具体化</p> <p>・ダストの気中への移行率について検討</p> <p>・ダスト閉じ込め機能のエリア、逆流防止の考え方についての整理、検討</p> <p>・運転員や作業員の習熟度を向上させるためのモックアップ/訓練の検討</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>・抜き出し装置の更なる具体化、安全対策を含めた詳細設計を実施し、スラッジを高台へ移送開始する。（2028年度 スラッジ回収着手）</p> <p>・ダスト閉じ込め対策を実現するための換気空調設備と配置の設計に伴い、設備の追加や筐体の大型化が必要となったため、耐震評価の見直しを実施中。耐震評価が完了次第、実施計画変更認可申請の補正を行う。</p> </div> </div>

工程表

対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
除染装置 スラッジの 移送	設計・検討	詳細設計検討	[Gantt bar: 4月 to 12月]																耐震評価を完了させるため、詳細設計を継続で検討中。	
	許認可	実施計画	[Gantt bar: 4月 to 12月]																耐震評価が完了次第、実施計画変更認可申請の補正を実施	
	製作 現場作業	除染装置フラッシング, 床面除染, 遮へい設置等	[Gantt bar: 4月 to 12月]																	
		抜き出し装置製作・設置	[Gantt bar: 4月 to 12月]																	
		抜き出し装置運転																[Gantt bar: 2028年度]		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																				
①-5	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	大型廃棄物保管庫第一棟への吸着塔類の屋内保管移行完了（2026年度）																				
現状の取り組み状況		検討課題						今後の予定														
<ul style="list-style-type: none"> 2020年5月27日 実施計画変更認可（建屋） 2020年6月1日～ 建屋設置工事 2024年3月1日 実施計画変更認可（クレーン） 2024年7月19日 実施計画変更認可（建屋補強） 2024年9月18日 建屋耐震補強工事着手 2025年10月31日 実施計画変更申請（使用済吸着塔保管架台） 		<ul style="list-style-type: none"> 使用済吸着塔耐震評価・落下影響評価の内容検討 使用済吸着塔架台床面の耐震性検討 南堰への使用済吸着塔受入の検討 						<ul style="list-style-type: none"> 使用済吸着塔保管架台設置 使用済吸着塔の屋内保管 														
工程表																						
分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度 以降	備考				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月									
許認可	実施計画																					・2025年10月31日 実施計画変更申請（使用済吸着塔保管架台） 青点線を踏まえ見直し
製作・設置 工事	建屋耐震補強工事	[Gantt bar from April to August]																				
	使用済吸着塔保管架台製作・設置																					
運用	使用済吸着塔類の受入																					建屋耐震補強工事の完了後に、SARRY吸着塔の受入れを行う。 SARRY吸着塔は2026年度中に屋内保管移行完了を行う。

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目																	
①-6	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	大型廃棄物保管庫第二棟への水処理二次廃棄物の屋内保管移行完了																	
現状の取り組み状況		検討課題										今後の予定							
施設の概念検討を経て設計・検討を実施中		<ul style="list-style-type: none"> 建設予定地のスペース有効活用 敷地境界線量低減方策 保管施設の耐震設計 										<ul style="list-style-type: none"> 設計，検討 2027年度に実施計画変更認可申請予定 							
工程表																			
分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
設計・検討	設計・検討	[Blue bar spanning from April to February 2026]																	
許認可	実施計画																		
現場作業	保管施設設置																		2031～2032年度に運用開始（水処理二次廃棄物の屋内保管開始）を目標とする。

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
①-8	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 水処理廃棄物等	水処理二次廃棄物の固化処理方針の策定（2025年度） 水処理二次廃棄物の固化処理方法決定・施設整備計画具体化 スラリー脱水物固化処理施設設置	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能な固化処理の技術的オプションの抽出・検討を実施中 ・処理方針策定に向けた計画の具体化を実施中 ・第15回1F技術会合にて固化処理実施に向けた検討の進め方及び2025年度固化処理方針策定の検討事項案を説明 ・第23回1F技術会合にてA L P Sスラリーの当面の分析計画を説明 ・第116回監視評価検討会にて2025年度固化処理方針策定に向けた検討の進捗状況を説明 ・第28回1F技術会合（11/25）にて固化処理方針案を説明 ・第119回監視評価検討会（12/15）にて固化処理方針を説明 		<ul style="list-style-type: none"> ・限定された分析データで評価せざるを得ない／分析データが存在しない廃棄物がある ・固化処理の選択肢の選定に影響する事項について、それらの取り扱いや影響の程度について技術的に整理していく必要がある ・固化処理の選択肢に応じた処理の流れや物量および設備規模などを、処理方法選択の材料として整理する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理二次廃棄物の固化処理技術等の開発について検討を進める。 ・分析データの取得のための実試料の採取と分析を継続する。 ・固化処理方法選定に向けた検討の実施。 * 固化処理方式選定に影響がある事項について整理を進める。なお、要件の目安とするレベルの設定に処分に関連する情報も必要な事項については、検討の進め方を整理する。 * 候補となり得る複数の処理の流れについて、概略の設備規模などを想定していく。 * これらの検討状況を反映して、固化処理方法の候補を絞り込んでいく。

対策	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
方針策定	固化処理方針検討・策定																	
計画策定・固化処理開始	具体的な固化処理計画の策定																	
	固化処理開始																	

No.	分類	項目
②-2	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業等によるもの）	廃棄物貯蔵庫（10棟）運用開始（2024年度） 廃棄物貯蔵庫（10棟）一時的運用解消（2033年度）
現状の取り組み状況		検討課題
<p>【廃棄物貯蔵庫（第10棟）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年2月21日に実施計画変更認可 ・10-A棟は2024年8月23日運用開始 ・10-B棟は2024年10月29日運用開始 ・10-C棟は2025年5月16日運用開始 		<p>—</p> <p>・廃棄物貯蔵庫（10棟）の一時的運用解消に向けて、移送先の施設の計画を検討する。</p>
現状の取り組み状況		今後の予定

工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
固体廃棄物貯蔵庫第10棟設置	現場作業	建屋設置工事																		
		機器設置工事	■																	
	運用	廃棄物受入	→																	

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
②-3	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業等によるもの）	廃棄物貯蔵庫（11棟）運用開始（2027年度） 廃棄物貯蔵庫（11棟以降）運用開始
現状の取り組み状況		検討課題
【廃棄物貯蔵庫（第11棟）】 ・ 1F耐震設計に関する考え方に基づき、耐震評価や設計を実施中 ・ 2025年8月8日 実施計画変更申請		【廃棄物貯蔵庫（第11棟）】 ・ 実施計画変更申請認可後に建築工事を実施する。
		今後の予定

工程表																				
対策	分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
固体廃棄物貯蔵庫第11棟設置	許認可	実施計画																		審査進捗を踏まえ見直し
	設計	設計検討																		
	現場作業	設置工事																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
②-4	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 瓦礫類等（これまでの廃炉作業等によるもの）	溶融設備設置（2029～2031年度）
現状の取り組み状況		検討課題
<ul style="list-style-type: none"> ・詳細設計（各機器、ダクト、電気設備、盤等々の具体的な構造設計）を実施中 ・インベントリの設定と不確実性、閉じ込め設計、耐震クラス（飛散率の設定）、安全設計について、事前面談を実施中 諸課題を踏まえて、工程を再精査		今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・インベントリの設定 ・耐震クラスの設定 ・閉じ込めを行う機器構成と機器仕様 ・溶鋼の流下、スラグの抜き取りを行う機器仕様 ・工程を精査 ・解析や試験を実施

工程表																													
対策	分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考										
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月															
溶融設備設置	許認可	実施計画																											
	検討・設計	詳細設計																											
	製作・設置	設置																											

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
③-2	固形状の放射性物質： 優先して取り組むべきリスク低減に向けた分野 核種分析	分析計画に基づく試料採取・分析の実施 ・主要核種の濃度の把握 ・固化に係る化学的性状の把握 ・既発生瓦礫類の汚染状況のばらつき把握（グルーピングの整理） ・建屋コンクリートにおける核種浸透挙動の把握
現状の取り組み状況		今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> 分析計画の継続的な更新： <ul style="list-style-type: none"> リスクマップ関連課題における分析ニーズの反映 <ul style="list-style-type: none"> 解体モデルケース検討 瓦礫類の放射能濃度管理手法の構築 水処理二次廃棄物の固化処理方針の策定 分析対象核種の選定 JAEA分析・研究施設の役割の拡大（ALPS処理水第三者分析等）に伴う分析数減を踏まえた分析方針の変更 <ul style="list-style-type: none"> 上記を反映した固体廃棄物の分析計画（2025年度版）の策定 分析用試料の採取・分析の実施（継続実施）： <ul style="list-style-type: none"> 分析計画に基づく試料採取 分析用試料の輸送（茨城地区分析施設、JAEA分析・研究施設第一棟） 分析の実施、分析データの整理・評価、各検討課題への展開 		<ul style="list-style-type: none"> 1F固体廃棄物の分析計画の更新（継続実施） <ul style="list-style-type: none"> リスクマップ関連課題における分析ニーズの反映 固体廃棄物の分析計画（2026年度版）の策定 試料採取・分析の実施（継続実施） <ul style="list-style-type: none"> 分析計画に基づく試料採取、輸送、分析の実施 分析データの整理・評価、各検討課題への展開 各検討課題のニーズ反映（C-14のNDの改善など）
<ul style="list-style-type: none"> 【分析計画の更新】 <ul style="list-style-type: none"> 最新の廃炉工程・作業状況等の反映 分析・試料採取等に係る技術課題への対応 【廃棄物毎の分析計画の具体化】 <ul style="list-style-type: none"> 分析計画策定において前提とする各廃棄物の管理方法、保管・管理、処理・処分方法の仮定の仕方 再利用に係る濃度基準の検討が必要（1F固有の条件を反映した予備的安全評価の実施） 		

対策	分類	内容	2025年度													2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
分析計画更新	検討	最新状況・計画の反映	[Blue bar]															継続実施
水処理二次廃棄物	検討	性状把握方針詳細化 分析計画詳細化 技術開発課題検討	[Blue bar]															継続実施 具体的な計画は分析結果や試料採取状況も踏まえ、適宜更新
	試料採取・分析	KURION/SARRY吸着材 ALPSスラリー	[Blue bar]															
解体廃棄物	検討	性状把握方針詳細化 分析計画詳細化 技術開発課題検討	[Blue bar]															継続実施 具体的な計画は分析結果や試料採取状況も踏まえ、適宜更新
	試料採取・分析	建屋コンクリートコア・ 断り・瓦礫類等	[Blue bar]															
瓦礫類等	検討	性状把握方針詳細化 分析計画詳細化 技術開発課題検討	[Blue bar]															継続実施 具体的な計画は分析結果や試料採取状況も踏まえ、適宜更新
	分析	試料採取・分析 (BG相当未済)	[Blue bar]															継続実施

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
④-1	固形状の放射性物質以外の主な目標 汚染水対策	滞留水中のα核種除去開始（2027年度） プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下
現状の取り組み状況		検討課題
<p>【滞留水処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1～3号機原子炉建屋内滞留水半減は2023年3月に完了 1～4号機建屋滞留水を一時貯留しているプロセス主建屋、高温焼却炉建屋を代替する建屋滞留水一時貯留設備を設置し、床面露出することを計画 2025年1月21日 実施計画変更認可（滞留水一時貯留設備設置） 2025年6月27日 実施計画変更認可（プロセス主建屋・高温焼却炉建屋 滞留水移送装置の設置） <p>【滞留水中のα核種除去開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全α濃度の傾向監視とともに、α核種の性状分析や実液によるモックアップ試験等を進め、セシウム吸着装置後段フィルタ装置の詳細設計を実施中。2025年7月8日に技術会合にて進捗状況を報告。 2024年6月27日 実施計画変更認可申請（セシウム吸着装置後段フィルタ装置） 		<p>【滞留水中のα核種除去開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実液によるモックアップ試験（フィルタ通水試験）にて想定より短時間で閉塞事象が確認され、その対策として、前処理（添加剤及び凝集剤の添加）プロセスの追加を実施し機器設計を見直した。 <p>【滞留水処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロセス主建屋、高温焼却炉建屋については、極力低い水位を維持しつつ、ゼオライト土壌等の回収及びα核種拡大防止対策、床面露出用ポンプの設置後、最下階床面を露出する。 プロセス主建屋、高温焼却炉建屋の機能を引き続き滞留水一時貯留設備を設置する。 <p>【滞留水中のα核種除去開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実液によるモックアップ試験を実施し、添加剤及び凝集剤の添加量を検討する。 滞留水中のα核種除去開始に向けてα核種除去設備の設置を実施する。

工程表																	
対策	分類	内容	2025年度											2026年度	2027年度	2028年度以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月				
建屋滞留水一時貯留設備の設置	現場作業	建屋滞留水一時貯留設備の製作・設置（詳細設計含む）	[Blue bar from April to March]														製作・設置期間を再精査
	許認可	実施計画	[Empty]														2025年1月21日認可
滞留水中のα核種除去方法の確立	許認可	実施計画	[Yellow bar from April to March]														審査進捗を踏まえ見直し
	現場作業	セシウム吸着装置後段フィルタ設備製作・設置	[Blue bar from April to March]														
	運用	セシウム吸着装置後段フィルタ設備運用	[Empty]														
プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下	現場作業	プロセス主建屋、HTI建屋の水位低下	[Empty]														

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
④-2	固形状の放射性物質以外の主な目標 汚染水対策	<p>建屋外壁局所止水対策の完了（2028年度） 建屋流入量の更なる低減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WPくみ上げ抑制策の検討 ・ 2.5m盤汚染箇所の特定 ・ 2.5m盤汚染土壌隔離措置・浄化策等の検討 ・ 凍土遮水壁の段階的終了に係る検討
現状の取り組み状況		<p>【建屋外壁局所止水対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4号機建屋間ギャップ端部止水の施工性確認(Y装備、全面マスク着用)：2024年3月～2024年9月 ・ 3号機T/B建屋間ギャップ端部止水対策工事(施工エリア線量低減対策含む)：2024年7月～ <p>【建屋流入量の更なる低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WP汲み上げ抑制対策の検討：解析的検討、施工的検討(2024年4月～)
		<p>【建屋流入量の更なる低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中長期的な汚染水抑制対策の進め方を検討に資する調査 ・ 地中の深度方向の線量分布調査、被ばく線量の確認 ・ 埋設物への対処（内部調査手法、不明埋設物） ・ 深部の水位管理手法
		<p>【建屋外壁局所止水対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3号機建屋間ギャップ端部止水対策（2024年度内に着手し、2025年度内に完了予定） ・ 3号機以外の建屋間ギャップ端部止水対策（2026年度以降、2028年度内に完了予定） <p>【建屋流入量の更なる低減】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 解析的検討、施工的検討を踏まえ、今後計画していく。 ・ 2.5m盤対策は、概略的な施工範囲と地中線量調査結果を踏まえ、具体的な施工検討を進めていく。

工程表																		
内容	分類	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
WP汲み上げ抑制対策の検討（解析的検討、施工的検討）	検討																	
3号機建屋間ギャップ端部止水対策	対策工事																	
3号機以外の建屋間ギャップ端部止水対策	対策工事																	・ 4号機R/B建屋間ギャップ端部止水対策：2026年2月～開始

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。
 WP：ウェルポイント

No.	分類	項目
⑤-1	固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減	1号機原子炉建屋カバー設置（2025年度） 1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度）
現状の取り組み状況		検討課題
<ul style="list-style-type: none"> 燃料取扱設備及び付帯設備の設計・製作 大型カバー本体鉄骨の構外地組および構内での設置および大型カバー換気設備他据付工事を継続 ガレキ撤去の計画 ずれが確認されたウェルブラグの処置方法の検討 2025年11月より、4号機燃料取扱機の有効活用に向けた搬出作業を開始 2026年1月19日 大型カバー設置完了 		<ul style="list-style-type: none"> 震災前から保管している破損燃料の取り扱い計画の立案 ウェルブラグのずれ状況の変化が生じた場合の対応策の立案 ガレキ撤去後のオベフロ面の状態を踏まえた除染・遮への成立性と対応策
		今後の予定
		<ul style="list-style-type: none"> ガレキ撤去装置製作，モックアップをガレキ撤去開始までに実施し，ガレキ撤去へ着手する。 燃料取扱設備及び震災前から保管している破損燃料の取り扱い等についても検討を進めていく。

工程表

対策	分類	内容	2025年度												2026年度	2027年度	2028年度以降	備考	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
大型カバー設置	現場作業	大型カバー設置	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2025.12.15]															2026年1月19日 大型カバー設置完了	
大型カバー換気設備他設置	現場作業	換気設備他設置	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2025.11.15]															作業進捗状況を踏まえて完了時期を修正	
ガレキ撤去（カバー設置後）	設計・検討	ガレキ撤去工事の計画	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2025.12.15]															適宜，現場調査を実施して設計へ反映 撤去進捗に合わせて、撤去計画に反映	
	現場作業	ガレキ撤去															[Gantt bar: 2026.1.1 - 2026.11.15]		
既設天井クレーン・FHM撤去	現場作業	既設天井クレーン・FHM撤去														[Gantt bar: 2026.1.1 - 2026.11.15]			
ウェルブラグ処置	現場作業	ウェルブラグ処置														[Gantt bar: 2027.1.1 - 2027.11.15]			既設天井クレーン・FHM撤去以降に実施する計画
オベフロ除染・遮へい	現場作業	オベフロ除染・遮へい														[Gantt bar: 2027.1.1 - 2027.11.15]			
燃料取扱設備設置	許認可	実施計画	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2025.11.15]															実績を反映	
	設計・検討	燃料取扱設備の設計	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2025.6.15]																
	製作	燃料取扱設備設置	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2026.11.15]																
	現場作業		[Gantt bar: 2025.11.15 - 2026.11.15]															4号機燃料取扱機の有効活用に伴う搬出作業を追加	
燃料取り出し	設計・検討	破損燃料取り扱いの計画	[Gantt bar: 2025.4.1 - 2028.1.15]																
	現場作業	燃料取り出し														[Gantt bar: 2028.1.15 - 2028.3.15]			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑤-2	固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減	6号機燃料取出し完了（2025年度） 1/2/5/6号機全燃料取出し完了（2031年度）

現状の取り組み状況	検討課題	今後の予定
<p>【6号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年4月27日 実施計画変更認可申請（6号機燃料取出に伴う構内用輸送容器収納燃料(9×9燃料)の追加) ・2022年8月30日 燃料取り出し開始 ・2022年9月25日 燃料取り出し 2回/全68回 完了 ・2022年度、共用プールの空き容量確保のため実施している乾式キャスクへの燃料装填後の一次蓋気密性確認時、判定基準を満足しない事象が発生。 原因は燃料に付着しているクラッドまたは炭酸カルシウムの影響と推定。 2023年度より、燃料を1体毎に水流により洗浄する手順や、乾式キャスク内の水を入れ替える手順を実施。これらの対応により気密性確認の手戻り無く作業を実施できている。 ・2023年10月27日 実施計画変更認可 ・2024年2月16日 6号機燃料取り出しのための共用プール空き容量確保完了 ・2025年4月16日 6号機燃料取り出し完了 <p>【5号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共用プールの空き容量確保の為、貯蔵されている使用済み燃料をキャスク仮保管設備へ移送。 ・2025年7月23日 燃料取り出し開始 	<p>【5号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～6号機の使用済み燃料を受け入れるために共用プールの空き容量確保に向けた乾式キャスク及びキャスク仮保管設備の増設 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2号機の作業に影響を与えない範囲で、燃料を取り出す。

工程表																					
対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
6号機燃料取り出し	現場作業	燃料取り出し																			<ul style="list-style-type: none"> ・2022年8月30日 燃料取り出し開始 ・2024年5月16日 3回目取り出し開始 ・2025年4月16日 燃料取り出し完了
5号機燃料取り出し	現場作業	燃料取り出し																			<ul style="list-style-type: none"> ・2025年7月23日 燃料取り出し開始

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑤-3	固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減 廃炉作業を進める上で重要なもの	乾式キャスク仮保管設備増設 共用プール燃料搬出・高台での乾式保管の開始
現状の取り組み状況		検討課題
<ul style="list-style-type: none"> 乾式キャスクの製造及び使用前検査実施中 乾式キャスクの福島第一への納入を継続実施 2020年9月29日 実施計画変更認可（輸送貯蔵兼用キャスク（既設）30基⇒45基） 2024年1月15日 実施計画変更認可（輸送貯蔵兼用キャスク（増設）30基） 2023年7月6日 実施計画変更認可申請（設備増設 計65基⇒計95基）※ ※合計基数には乾式貯蔵キャスク20基含む 2024年2月 キャスク仮保管設備の増設着手 2025年8月20日 実施計画変更認可（乾式キャスク仮保管設備の増設） 		今後の予定 ・2026年度より増設箇所の運用開始予定

工程表																					
対策	分類	内容	2025年度												2026年度		2027年度	2028年度以降	備考		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
乾式キャスク増設	現場作業	乾式キャスクの製造	→																		
		乾式キャスクの設置 （共用プールからの燃料取り出し）	→																		
乾式キャスク仮保管設備の増設	許認可	実施計画	→																	2025年8月20日 実施計画変更認可	
	現場作業	乾式キャスク仮保管設備の増設工事	→																		

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑤-4	固形状の放射性物質以外の主な目標 原子炉建屋内のリスクの低減	1/3号機S/C水位の低下（2025年度） （3号機RHR（A）系統の水素滞留を踏まえた調査と対応）

現状の取り組み状況	検討課題	今後の予定
<p>PCV(S/C)水位低下の方法として、2通りの方法を検討中。</p> <p>①原子炉注水流量低減によるもの(PCV(S/C)からの漏えいを利用)</p> <p>②取水設備(S/Cの水位低下設備)の設置によるもの</p> <p>なお、2021年2月及び2022年3月に発生した地震以降、PCV水位低下傾向が確認されたことから、①を主案として、①で目標水位の達成が困難な場合に②に移行することを検討中。</p> <p>【1号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> S/C内包水のサンプリングを完了。PCV(S/C)水位計の設置完了。 原子炉注水流量の低減によるPCV水位低下を実施。2024年12月末以降、S/C水位低下速度の増加を確認したことから、継続して傾向を監視中。現状の低下速度のまま低下し続けると想定した場合、2026年度上期までにはS/C中央付近に到達する見込み。 設備設置について、線量低減対策も含めた現場作業の成立性を確認、設備設計の検討中 <p>【3号機】</p> <ul style="list-style-type: none"> S/C内滞留ガスのパージ作業を実施中。（S/Cの構造上パージできないガス（約90Nm3）の希釈/排出作業を実施中） PCV(S/C)水位計の設置完了。 2025年度にPCV水位を1m程度低下した。 設備設置について、ガイドパイプ案の他、既設配管を活用した水位低下方法も検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> 3号機について、S/C内滞留ガスの濃度(水素:約75%、Kr:約$1.46 \times 10^4 \text{Bq/cm}^3$)や容量(約$1600 \text{Nm}^3$と想定)を考慮すると、パージ作業に時間がかかると想定。 3号機では、2025年度12月にマイクロドローンによるPCV内部調査を行うため、マイクロドローンをペDESTAL内まで飛行させるためのPCV水位調整（T.P 8264～9264の維持管理範囲から約T.P 7300まで低下）は完了。追加でPCV内部調査を実施する場合は、調査内容（方法）に応じて更なる水位調整が必要になる可能性あり。 パージ期間の短縮として、D/W水素濃度管理値の見直し、PCV給排気量の増加を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 1号機についてはS/Cの水位低下状況に応じて取水設備の設置時期を検討予定。 3号機について、S/C内滞留ガスパージ作業中にマイクロドローン調査のための水位調整作業を実施する。パージ作業終了後原子炉注水流量の低減による本格的なPCV（S/C）水位低下を予定。 PCV(S/C)水位低下時の原子炉安全上の影響を考慮し、PCV(S/C)水位低下に関するパラメータ(滞留水の性状含む)の監視を行いながら、段階的にPCV(S/C)水位低下を行う。

工程表

分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
1号機PCV（S/C）水位低下	PCV(S/C)水位計の設計・製作・設置																									
	線量低減・サンプリング機構設置・採水																									
	取水設備の設計・製作・設置																									
	PCV（S/C）水位低下																									
3号機PCV（S/C）水位低下	PCV(S/C)水位計の設計・製作・設置																									
	現場適用性の課題抽出・整理																									
	現場適用の成立性確認																									
	水位低下設備の設計検討																									
	水位低下設備設置に伴う環境整備																									
	PCV（S/C）水位低下																									
3号機PCV内取水設備設置	取水設備運転開始（S/C内包水の水質改善）																									PCV取水設備の運転開始

※PCV水位低下前のS/C内の滞留ガス（水素）についてパージ作業が必要であり、パージ作業の進捗を踏まえPCV水位低下を実施予定
 赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目				
⑥-1	固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去	原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度） 1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）				
現状の取り組み状況		<table border="1"> <thead> <tr> <th>検討課題</th> <th>今後の予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 【原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度）】 ・1～4号機原子炉建屋は、損傷状況を考慮した建物モデルを用いた地震応答解析により倒壊に至らないことを確認済 ・原子炉建屋については、4号機は定期的に建屋内部を目視等で躯体状況を確認。1～3号機は、高線量エリアであるため建屋内外の画像等から調査可能な範囲の躯体状況を確認。 ・耐震安全性評価の保守的な評価モデルに対し、耐震要素の経年劣化等の有無を確認し、必要に応じ評価モデルを反映。 ・3号機原子炉建屋の地震観測試験を開始（2020年4月） 2020年7月、10月に地震計故障により観測を中断していたが、地震計を復旧して2021年3月より観測を再開。 ・1号機地震計の設置を2023年3月に完了し、同月観測を開始。 ・外観点検計画の立案を目的に、原子炉建屋内調査（耐震部材周辺及びアクセスルートの状況確認）を実施。（1号機：2021年11～12月、2号機：2021年10～11月、3号機：2021年5月） ・2023年度に遠隔操作ロボット及びドローンによる3号機の建屋内調査を実施済み（2023年8月～2024年3月） ・2024年度にこれまでの取り組み内容をまとめ、建屋健全性評価手法を確立（2025年3月） 【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・暫定として4階レベルに地震計設置完了 </td> <td> 【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・瓦礫類撤去後の設置場所検討 ・地震計設置 </td> </tr> </tbody> </table>	検討課題	今後の予定	【原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度）】 ・1～4号機原子炉建屋は、損傷状況を考慮した建物モデルを用いた地震応答解析により倒壊に至らないことを確認済 ・原子炉建屋については、4号機は定期的に建屋内部を目視等で躯体状況を確認。1～3号機は、高線量エリアであるため建屋内外の画像等から調査可能な範囲の躯体状況を確認。 ・耐震安全性評価の保守的な評価モデルに対し、耐震要素の経年劣化等の有無を確認し、必要に応じ評価モデルを反映。 ・3号機原子炉建屋の地震観測試験を開始（2020年4月） 2020年7月、10月に地震計故障により観測を中断していたが、地震計を復旧して2021年3月より観測を再開。 ・1号機地震計の設置を2023年3月に完了し、同月観測を開始。 ・外観点検計画の立案を目的に、原子炉建屋内調査（耐震部材周辺及びアクセスルートの状況確認）を実施。（1号機：2021年11～12月、2号機：2021年10～11月、3号機：2021年5月） ・2023年度に遠隔操作ロボット及びドローンによる3号機の建屋内調査を実施済み（2023年8月～2024年3月） ・2024年度にこれまでの取り組み内容をまとめ、建屋健全性評価手法を確立（2025年3月） 【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・暫定として4階レベルに地震計設置完了	【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・瓦礫類撤去後の設置場所検討 ・地震計設置
検討課題	今後の予定					
【原子炉建屋の健全性評価手法の確立（2024年度）】 ・1～4号機原子炉建屋は、損傷状況を考慮した建物モデルを用いた地震応答解析により倒壊に至らないことを確認済 ・原子炉建屋については、4号機は定期的に建屋内部を目視等で躯体状況を確認。1～3号機は、高線量エリアであるため建屋内外の画像等から調査可能な範囲の躯体状況を確認。 ・耐震安全性評価の保守的な評価モデルに対し、耐震要素の経年劣化等の有無を確認し、必要に応じ評価モデルを反映。 ・3号機原子炉建屋の地震観測試験を開始（2020年4月） 2020年7月、10月に地震計故障により観測を中断していたが、地震計を復旧して2021年3月より観測を再開。 ・1号機地震計の設置を2023年3月に完了し、同月観測を開始。 ・外観点検計画の立案を目的に、原子炉建屋内調査（耐震部材周辺及びアクセスルートの状況確認）を実施。（1号機：2021年11～12月、2号機：2021年10～11月、3号機：2021年5月） ・2023年度に遠隔操作ロボット及びドローンによる3号機の建屋内調査を実施済み（2023年8月～2024年3月） ・2024年度にこれまでの取り組み内容をまとめ、建屋健全性評価手法を確立（2025年3月） 【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・暫定として4階レベルに地震計設置完了	【1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）】 ・瓦礫類撤去後の設置場所検討 ・地震計設置					

工程表

分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 現時点	3月							
原子炉建屋の健全性評価手法の確立	躯体状況確認 調査方法の検討 モックアップ																			2024年度建屋健全性評価手法を確立 今後、継続的に評価手法に基づき建屋健全性を確認
1号機原子炉建屋上階への地震計設置（5階瓦礫類撤去後）	瓦礫類撤去後の設置場所検討 地震計設置																			暫定として4階レベルに設置した地震計で計測開始

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑥-2	固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去	運用補助共用施設周辺の斜面对策工事の完了
現状の取り組み状況		今後の予定
<ul style="list-style-type: none"> 第16回1F技術会合にて対応方針，対策実施箇所の選定方針について提示（2023年12月26日） 干渉物移設・撤去が必要な設備の抽出（完了） 干渉物移設・撤去中長期シナリオ作成（完了） 斜面セットバック工事に伴う設計（継続中） 干渉物移設・撤去の検討（継続中） 		<ul style="list-style-type: none"> ・セットバック工事にあたって，既設建造物の移設・撤去および発生土量が必要最小限となるような平面レイアウトを検討する。 ・斜面セットバック後の付け替え道路線形の方針は具体化できている一方で，施工ヤードの設定等が明確化できていない。それにより，高圧ケーブルなどの配線や配管類の移設候補先が定まらない。
<ul style="list-style-type: none"> ・干渉物撤去・移設については中長期シナリオを基に適宜，進捗管理を行い，2029年度までに完了予定。 ・斜面对策工事についてはブル燃料取り出し等の対策箇所周辺工事に支障が発生しないように工事計画ならびに設計に取り組む。 		

工程表

分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
事前準備	支障となる移設対象設備の検討・選定	[Blue bar spanning 4月 to 2月]																	
	支障となる設備の移設工事																		
セットバック工事	セットバック工事の設計・検討	[Blue bar spanning 4月 to 2月]																	
	工事																		実施時期は廃炉作業の進捗を踏まえ決定

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑥-3	固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去	廃炉設備の維持・撤去に係る計画の策定（2024年度）
現状の取り組み状況		今後の予定
○リブレース対象工事の抽出方法の判断フロー案を作成 ・具体的実施内容を記載した検討を実施 ・報告様式の作成 ○2024年度の取組として対象設備の抽出、設備更新計画の策定を開始		○リブレース計画策定に必要な情報 ・リブレース判断には運用計画が必要となるが、長期的計画が不透明な設備がある ・経年劣化、リスク評価を判断するために、現状の設備状態の把握 ・現時点における情報（設備運用計画、経年劣化、リスク等）を元に抽出 ○継続的な取組 ・長期使用する廃炉設備について、経年劣化による設備の腐食等のリスクや設備の機能維持を考慮し信頼性向上のための設備更新等を進める。

工程表

分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
検討	対象設備の抽出																			対象設備の抽出済、今後も適宜実施
	設備更新計画の策定																			設備更新計画の策定済、今後も適宜実施
	数値計画計上																			数値計画計上済、今後も適宜実施
設備更新	リブレース工事																リブレース工事については各設備の検討結果による			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑥-4	固形状の放射性物質以外の主な目標 設備・施設の維持・撤去	新水処理設備の設置（新ALPS設備、新RO設備）
現状の取り組み状況		検討課題
○新ALPS設備 ・建設候補地の地質調査などを完了 ・基本設計を実施中 ○新RO設備 ・建設候補地の地質調査を完了 ・基本設計を実施中		○新ALPS設備 ・耐震クラスに応じた具体的な設備設計 ・増設ALPS身体汚染事象などの対策を踏まえた設備設計 ・ダスト閉じ込め対策の具体的な成立性の検討 ○新RO設備 ・耐震クラスに応じた具体的な設備設計
		今後の予定
		○新ALPS設備 ・2026年度に実施計画変更認可申請予定 ○新RO設備 ・2026年度に実施計画変更認可申請予定

工程表

分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月											
新ALPS設備	検討・設計・設置	[Blue bar spanning 4月 to 2月]																						
	運用																							
新RO設備	検討・設計・設置	[Blue bar spanning 4月 to 2月]																						
	運用																							

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目
⑦-1	固形状の放射性物質以外の主な目標 廃炉作業を進める上で重要なもの	2号機燃料デブリ試験的取り出し・格納容器内部調査・性状把握（2024年度）
現状の取り組み状況		検討課題
<p>○2号機原子炉格納容器内部の詳細調査における実施計画変更認可申請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年7月25日 実施計画変更認可申請 ・2021年2月4日 実施計画変更認可 <p>○2号機PCV内部調査及び試験的取り出し作業のうち試験的取り出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年8月4日 実施計画変更認可申請 ・2024年2月5日 実施計画変更認可 <p>○テレスコピック式試験的取り出し装置による試験的取り出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年2月16日 実施計画変更認可申請 ・2024年5月9日 実施計画変更認可 <p>○原子炉格納容器（PCV）内部調査及び・試験的取り出し作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボットアームについては、PCV内部調査及び試験的取り出し装置の開発として、2022年2月から実施していたJAEA稲葉遠隔技術開発センターにてモックアップを使用した試験を実施。 ・遠隔操作でアームに搭載したAWJツールによる障害物を除去しアクセスルートの構築が可能なことやアームにセンサや取り出し装置を搭載しベスタル内でのデータ取得や模擬デブリの採取、双腕マニピュレータによるセンサやツール等の取外し取付作業が実施でき、作業の成立性を確認。 ・ロボットアームについて、アームの内部ケーブルや類似箇所の部品交換等を含めた全体点検が予定通りに完了。現在、全体点検後の動作試験を進めており、アームの動作に問題がないことを確認している。 ・テレスコピック装置のカメラ不具合事案を踏まえて、ロボットアームに搭載しているカメラの照射試験を実施中のところ、現場環境よりも厳しい条件下ではメーカ仕様通りの耐放射線性が確認できないものがあったことを確認。実際の現場環境（PCV内）にあわせた条件の照射試験においても、メーカ仕様通りの耐放射線性を確認できないもの確認。加えて、カメラの予備機が入手不可のため、現地作業にて高い累積放射線量が必要となる部位のカメラについては、使用するカメラを当社作業において使用実績のあるカメラへ変更実施。することとした。 ・変更したカメラについては、メーカ仕様通りの耐放射線性を確認。但し耐放射線性が現地作業の計画線量よりも低いため、マニピュレータでの遠隔操作により適宜交換を行い、オペレーションを継続する計画。現在、カメラ変更に伴う視認性の確認、マニピュレータによるカメラ交換、非常時を想定したアーム回収操作の訓練等を実施中。また、テレスコピック装置の事案を踏まえて、ロボットアーム及び付帯設備の据付作業について模擬環境での作業訓練を実施中。 ・検証試験が順調に進めば、2025年度末にロボットアームを1Fへ移送し、現地への据付作業を進めていく予定。 →今後、ワンツール試験やカメラ変更に伴う追加検証を行い、現場作業に向けて準備を進めていく。 		<p>○原子炉格納容器（PCV）内部調査及び試験的取り出し作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレスコピック装置のカメラ不具合事案を踏まえて、ロボットアームに搭載しているカメラの照射試験を実施中のところ、現場環境よりも厳しい条件下ではメーカ仕様通りの耐放射線性が確認できないものがあったことを確認。また、実際の現場環境（PCV内）にあわせた条件の照射試験においても、メーカ仕様通りの耐放射線性を確認できないもの確認。加えて、カメラの予備機が入手不可のため、現地作業にて高い累積放射線量が必要となる部位のカメラについては、使用するカメラを当社作業において使用実績のあるカメラへ変更することとした。引き続き、カメラの照射試験およびカメラ変更に伴う追加検証を行い、現場作業に向けた準備を進めていく。
		今後の予定
		<p>○原子炉格納容器（PCV）内部調査及び試験的取り出し作業</p> <ul style="list-style-type: none"> →初回の試験的取り出し作業について完了 →テレスコピック装置による2回目の取り出し作業が完了 →1回目の試験的取り出しについて、今回のテレスコピック装置を用いた一連の試験的取り出し作業の実績、並びにロボットアームの試験状況等を踏まえ、安全かつ慎重に試験的取り出しを進めるべく、今後の工程や手法について精査している。 ・ロボットアームの検証試験が順調に進めば、2025年度末にロボットアームを1Fへ移送し、現地への据付作業を進めていく予定。

対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度 以降	備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 現時点	3月						
2号機PCV内部調査及び試験的取り出し作業、性状把握	現場作業	PCV内部調査及び試験的取り出し作業	[Gantt chart showing activity from April to March 2025]												[Gantt chart showing activity from April to March 2026]					
		性状把握	[Gantt chart showing activity from April to March 2025]												[Gantt chart showing activity from April to March 2026]					

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧-1	継続的な実施を行うもの	原子炉建屋内等の汚染状況把握（核種分析等） 原子炉冷却後の冷却水の性状把握（核種分析） 原子炉建屋内等での汚染水の流れ等の状況把握	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
継続的な取り組みを実施。			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧-2	継続的な実施を行うもの	格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握（圧力容器内については今後実施予定）	
現状の取り組み状況		検討課題	
<p>○1号機 原子炉格納容器（PCV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔調査装置を開発し、PCV内部調査を進めている。至近の調査状況は下記の通り。 走行型調査装置が1階グレーチング上から装置先端部を吊り下ろすことで、ベデスタル外側地下階の映像・線量率を取得（2017年3月） PCV地下階に水中ROVを投入し、ベデスタル内外の映像・線量率・堆積物状況の調査を実施。（2022年2月～2023年4月） 小型ドローンおよび無線を中継するヘビ型ロボットを用いて、ベデスタル外1FLエリアおよびベデスタル内の気中部調査を実施。（2024年2月～3月） 気中部調査の結果を踏まえ、更なる調査に向けた調査範囲の策定、調査装置の改良設計・試験・M/U計画を検討中 <p>○3号機 原子炉格納容器（PCV）内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 水中ROVにてベデスタル内の映像を取得（2017年7月） マイクロドローンを用いて、ベデスタル外1FLエリアおよびベデスタル内の気中部調査を実施予定（2025年12月予定） <p>○原子炉圧力容器（RPV）内部調査（2号機）</p> <ul style="list-style-type: none"> 早期に内部を確認する目的で既設配管を用いた調査を実施する。（2026年度上期） RPVノズルN16Aに葉がる原子炉水位計装配管に小型線量計を内蔵した内視鏡を人力で挿入して調査を行う。 2025年12月22日 実施計画変更認可 2026年1月30日 使用前検査（工場）受検 2026年2月3日～ 現場準備作業の着手 		<p>○1号機格納容器内部調査（気中部調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年度に実施したPCV内部調査（気中部調査）から得られたベデスタル内状況を模擬したモックアップ設備による習熟訓練の実施。 ベデスタル内はCRD関連機器と思われる上部の構造物が複数落下していたことから、同じくドローンでRPV底部を調査するためには上部方向を確認する手段の検討。 PCV内の霧は照明の性能を著しく低下させ視認距離を短くし、カメラに曇りを発生させる要因にもなるため気中部の調査においてはカメラや照明等の対策。 <p>○3号機格納容器内部調査</p> <ul style="list-style-type: none"> マイクロドローンを用いたPCV内部調査において、調査範囲の縮小や機体の墜落の要因になる無線通信状態や未踏エリアの干渉物の有無については、実環境でしか確認できないため、調査時に適宜確認し検討していく。 <p>○原子炉圧力容器（RPV）内部調査（2号機）</p> <ul style="list-style-type: none"> 既設配管を模擬したモックアップ施設による調査装置の挿入性習熟訓練の実施。 	<p>今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 1号機PCV内部調査（気中部）を実施予定。 3号機PCV内部調査を2025年度より実施予定。 2号機RPV内部調査を2025年度下期～2026年度上期に実施予定。

対策	分類	内容	2025年度												2026年度			2027年度	2028年度以降	備考								
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月											
1号機格納容器内部調査（気中）	検討	検討	[Yellow bar]																	・進捗状況を踏まえ見直し								
	製作・設置	製作・モックアップ・設置																										・進捗状況を踏まえ見直し
	作業	調査																										※時期調整中 ・進捗状況を踏まえ見直し
3号機格納容器内部調査	設計	詳細設計																										
	製作・設置	製作・モックアップ・設置																										
	作業	環境改善 調査																										※2025年12月、動作確認においてインストール装置が前進できない事象を確認したことから、工程精査中。
2号機原子炉圧力容器内部調査	許認可	実施計画																										
	製作・設置	製作・設置																										※時期調整中
	作業	環境改善																										※時期調整中
	作業	調査																										※時期調整中

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧-3	継続的な実施を行うもの	排水路の水の放射性物質の濃度低下	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
継続的な取り組みを実施。			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
 青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。

No.	分類	項目	
⑧-4	継続的な実施を行うもの	高線量下での被ばく低減 建物等からのダスト飛散対策 労働安全衛生環境の改善 品質管理体制の強化（高線量作業に対するリスク抽出及び業務管理の強化）	
現状の取り組み状況		検討課題	今後の予定
継続的な取り組みを実施。			

赤字は前回からの追加・変更箇所を示す。
青点線の工程は見直し前、黄色線の工程は見直し後の工程を示す。